

(様式3) 【学校用】

## ふるさと教育 取組事例

学校名	吉賀町立柿木中学校		
学 年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
2	総合的な学習の 時間	ふるさと教育 (高津川・水)	島根県土益田整備事務所 環境保護団体タカラバ
ねらい	川・水についての理解を深めるとともに、水質日本一の高津川と地域社会の生活を守っていくために自分たちにできることを考え、実践しようとする態度を養う。		
<p><b>1 取組の概要</b></p> <p>本年度は「高津川の恵みと防災」を軸に、地球規模の気象変動を自分事として捉える探究活動を展開した。高津川の水質日本一という「光」の側面と、水害という「影」の側面の両方に光を当て、治水工事現場やダムの見学を通して、地域の安全を支える科学技術と人々の努力を学んだ。体験活動を通じて高津川の価値を再認識させ、持続可能な地域社会の担い手として、科学的根拠に基づいた防災意識と郷土愛を育むことを目指した。</p> <p><b>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。</b></p> <p style="padding-left: 20px;">(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <p>地域を守る専門家や環境団体の方々的情熱に触れることで、日常風景である高津川が「守るべき価値のある宝」であることを再定義させた。単なる知識の習得に留まらず、自分たちの生活が多くの人の尽力によって支えられているという「感謝」と、次は自分たちがそのサイクルに加わりたいという「当事者意識」を醸成する意図で活用した。</p> <p style="padding-left: 20px;">(学力育成の視点から)</p> <p>理科の「気象」や「大地の変化」、社会科の「防災・減災」の知識を統合し、実社会の課題と結びつける教科横断的なアプローチを重視した。自然がもたらす「恩恵(水資源)」と「脅威(災害)」の二面性を多角的に分析させることで、科学的な思考力を養う。さらに、地域課題の解決には知識と技能の習得が不可欠であることを実感させ、日常の教科学習に対する目的意識を向上させることを狙いとした。</p> <p><b>3 児童・生徒に見られた変容(どのような力が身に付いたか等)</b></p> <p style="padding-left: 20px;">(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <p>外部講師の生き方に触れたことで、地域貢献を「遠い誰かの仕事」ではなく「自分たちの将来の選択肢」として捉え直す姿が見られた。高津川の環境保全や防災活動に対し、自分たちが発信できることは何かを主体的に議論し、他者へ伝えようとする表現力や行動力が向上した。</p> <p style="padding-left: 20px;">(学力育成の視点から)</p> <p>「なぜこの場所にダムが必要なのか」「降水量がどう変化しているか」といった疑問に対し、学習した知識を用いて論理的に説明しようとする姿勢が強まった。学びが社会に直結していることを実感したことで、理科や社会をはじめとする各教科への学習意欲が、より具体的かつ継続的なものへと変化した。</p> <p><b>4 課題や今後の展望</b></p> <p>活動の質をさらに高めるため、生徒一人ひとりが「自分がプロジェクトの主役である」と実感できるような、アウトプットの場(地域への提言や交流会など)の拡充を検討したい。今後も地域の専門家と連携を深め、教室内の学びを社会実装へとつなげるパイプ役としての教育課程を構築していく。</p>			



※取組の様子がわかるような画像を数枚貼り付け、ファイルのデータサイズが500kb以下となるようにしてください。  
 ※この事例をしまねのふるさと教育ホームページに掲載する予定のため、画像は必ず承諾を得たものにしてください。